

研究課題 ・ 英語発信力を高めるための指導方法

現状の課題

スピーキングを苦手としている生徒が多い

課題に対する具体的な取組の内容

9、10月を前半期とし、5回程度発表形式のレッスンを受講した。その前後に通常の授業において、理由や例を効果的に用いて、適切な論理展開で相手に自分の考えや情報を伝える活動を行った。

11、12月を後半期とし、5回程度やりとり形式のレッスンを受講した。その前後に通常の授業においてディベートやディスカッションのような相手の意見や考えを聞き、理由や例を効果的に用いて、即興的に自分の考えを話す活動を行った。

成果①

事後アンケートから、7割の生徒が「聞く力」と「相手の質問への対応力」の向上を実感していた。英検2級を受験した生徒はほぼ全員面接試験まで合格し、2年間経験した3年生には準1級に合格した者、IELTS6.0を取得した者もいた。英語面接を入試として課す大学にも数名合格した。

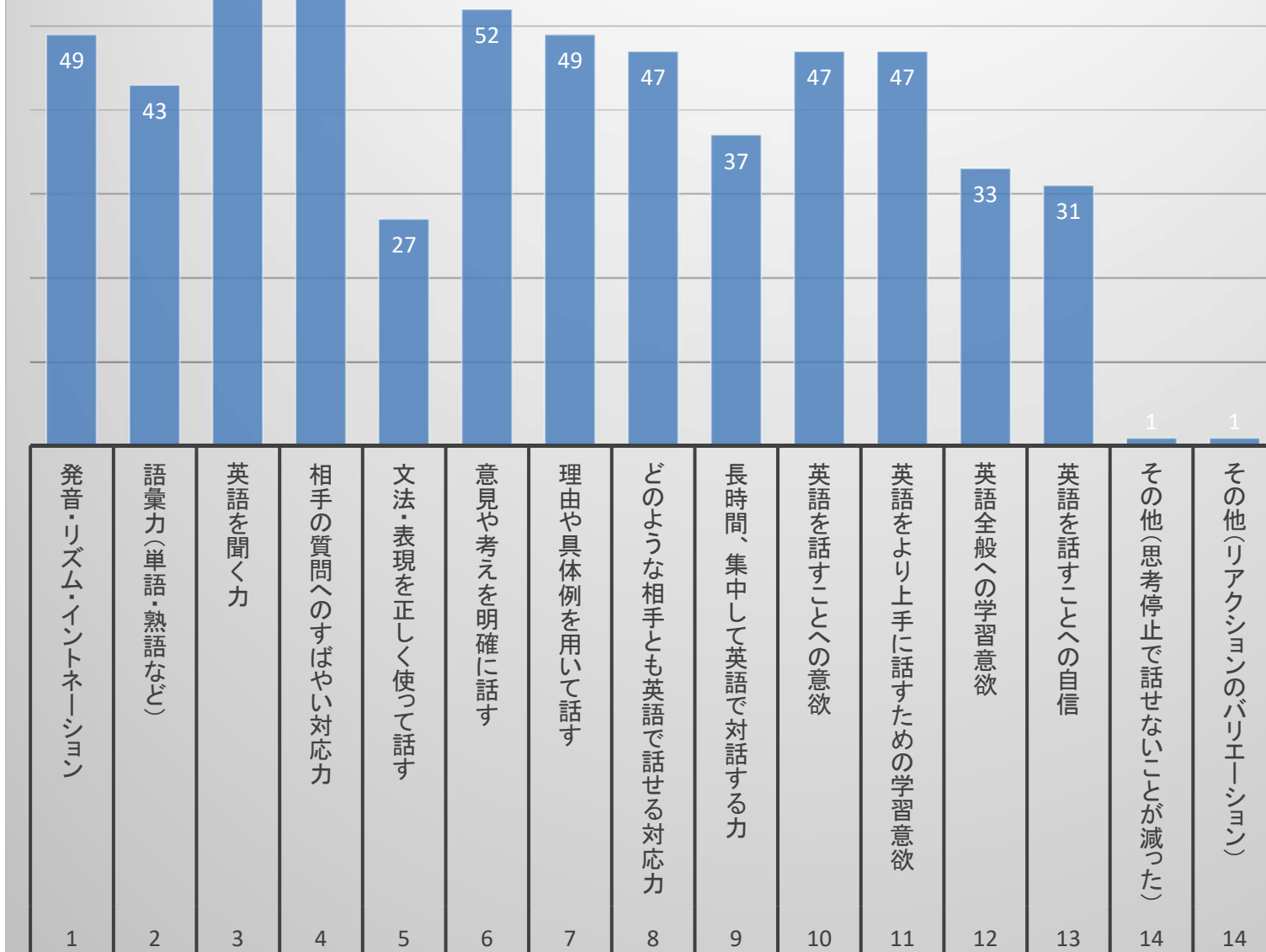
成果②

2年生で事前、事後に実施したGTECの個別の生徒のスコア変動からは、リスニングでCEFR段階が向上した生徒が66%、同スピーキングで23%であった。ほとんどの生徒は海外にいる講師と直接やりとりを重ねることへの意欲が高まった。やりとりを振り返り、自らの学びを自己調整しようとする力も高まった。

今後の課題・方向性

この事業と、それに平行した指導の中で、スピーキング力の向上には生徒の意欲によるところが大きいと感じた。このオンラインレッスンをチャンスととらえ、自分を高めようとする者と、極少数ではあるが、苦手とし、意欲が低く、欠席後の振り替え受講を受けたがらない者との動機付けの格差が目立った。そのため、苦手な生徒への個別の声かけ、事前指導などで、受講生徒全員が向上心を持って、レッスンに臨めるように努めていきたい。

事後アンケート向上したこと 2・3年英語科合計75名(数字は%)



2年生英語科 OST実施前後CEFR(GTEC)比較

	リスニング		スピーキング※	
	6月	12月	6月	12月
平均	213.6	225.9	253	252.3
B2	6	4	3	0
B1.2	0	7	0	1
B1.1	6	5	4	1
A2.2	10	7	23	25
A2.1	11	9	5	1
A1.3	3	1	1	0
A1.2	1	0	0	0
受験人数	37	33	36	28

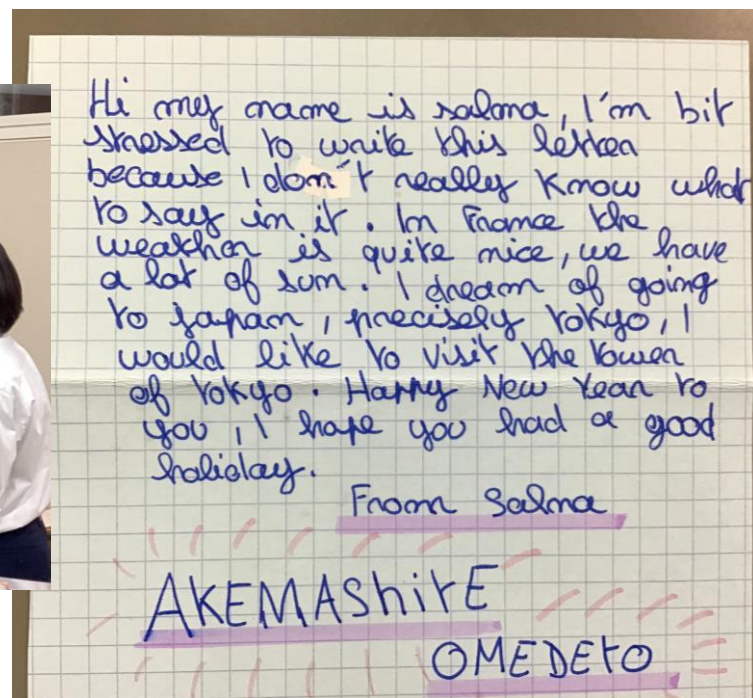
※母数となる受験人数が各回違うので、特にスピーキングについては参考資料

宮城県泉高等学校におけるオンラインによるフランスとの交流

フランスで長年日本語を教えている日本人の方を通して、一昨年度から交流を行っている。今年度は、江戸時代に伊達藩の支倉常長の遣欧使節が立ち寄ったサントロペという都市の中学校の英語クラスの有志7名と本校生徒有志7名とで3回交流を行った。

【交流内容】

1回目はお互い個人の自己紹介を行い、質問し合った。2回目はこちらから仙台と泉高校の紹介を写真付きで行い、フランスからは各生徒の好きな場所について写真付きで紹介してもらった。3回目はこちらから簡単な日本語のフレーズを教え、フランスからは将来の夢について話してもらった。3回の交流は正月をまたいたので、New Year's Cardをお互いに送り合い、交流を深めた。



宮城県泉高等学校におけるオーストラリア研修

毎年3月に1年生希望者を対象に、オーストラリア、ブリスベンに約10日間ホームステイしながら、現地の高校の授業を、現地の高校生と共に体験する研修である。新型コロナウイルス感染症蔓延のため3年ぶりの実施となった。

【交流内容】

ホームステイのホストファミリーまたは現地校のバディ（授業体験などでサポートしながら一緒に行動してくれる生徒）に、事前に決めたテーマでインタビューして、文化比較を行った。また現地校の生徒の前で、日本文化に関するプレゼンテーションを行った。

